

札幌市立 認定こども園にじいろ

〒004-0832

清田区真栄 2 条 1 丁目 11-20

【真栄小学校との関係や連携に至る経緯】

- ・認定こども園にじいろの卒園児の中で、真栄小学校に入学する子は最も多く兄弟のいる幼児も多い。
- ・平成24年度に札幌市立認定こども園にじいろ、国際大付属幼稚園、札幌あさひ保育園、真栄小学校の3園1校で行った読書活動を通しての研究をきっかけに連携が始まり、現在も読書にとどまらず交流を継続している。

【年長児と学校の先生や児童との連携】

- ・6月初めに散歩で真栄小学校を通りかかったのをきっかけに1年生の運動会の練習を見学したり、中休みに校庭で遊び小学校の先生や卒園児、友達の兄弟など関わったりする。
- ・6月中旬に小学校の先生が来園し一緒にゲームをしたり、絵本の読み聞かせをしてくれたりする。
- ・9月に6年生が職業体験として来園し、園児と一緒に鬼ごっこをして遊んだり絵本の読み聞かせをしてくれたりする。また、1年生の生活科の授業に年長児が加わり、ドングリを使って一緒に工作をする。



【小学校の先生が来園し、一緒にゲームをしている】



【6年生が来園し、読み聞かせをしてきている】



【小学校で1年生に工作を教えてもらっている】

- ・10月、学習発表会の児童観覧日に年長児が見学に行き、発表を見たり校庭を使わせてもらったりする。
- ・2月に小学校見学と、雪山でのチューブ滑りをさせてもらう予定。

【保護者が小学校を知るための連携】

- ・10月に園で行われるクラス懇談会で、小学校の先生から保護者に小学校生活に向けて話をしてもらう。
- ・12月に小学校から年長児の保護者に1年生の授業参観の案内をもらい、任意で参加し授業の説明を聞いて参観したり、小学校の先生に質問に応じてもらったりする。

【職員同士の連携】

- ・小学校の先生に園の公開保育に参加してもらい、園の教育・保育について理解をしていただくとともに、園の職員が小学校の授業参観や授業研究に参加させてもらう。
- ・年間計画の作成や交流のまとめを行ったり、交流の度に計画や反省を行ったりする。

【成果】

- ・連携を積み重ねることで、幼児にとって小学校や小学校の先生が身近な存在に感じられるようになり、よいイメージや安心感をもつことができた。
- ・幼児が小学校に行くだけでなく、園に小学生や小学校の先生が来てくれたり、一緒に遊んでくれたりすることでより親しみの気持ちをもつことができた。
- ・園の職員と小学校の先生がつながっているということが幼児や保護者に安心感を与えることができる。
- ・小学校の先生と園の職員が互いの子どもの保育・授業を見合うことで保育や教育の理解をすることができる。

【考察】

- ・幼児期に大切にしたい活動を尊重しつつ普段の生活の延長の中で連携していくことが、自然な形で交流を継続していくことにつながる。また、継続した連携は、地域を知るためにも有効である。
- ・小学校の先生が続けて連携に携わってくれているため、幼児にとって安心してかかわれる存在となっている。今後も、幼児にとって親しみをもって関わられる存在の先生が継続して連携の要になっていくことが必要である。

札幌国際大学付属幼稚園

〒004-0813

清田区美しが丘3条1丁目2-1

【真栄小学校、認定こども園にじいろ、
あさひ保育園との連携】

連携の様子

- ・ 近隣の公園で幼稚園、保育園の園児交流
- ・ 小学校教諭による絵本や教科書の読み聞かせや質問タイム
- ・ 小学校の運動会練習見学
- ・ 小学校教諭による幼稚園年長保護者向けの懇談会
- ・ 小学校内見学 など

連携に至る経緯

- ・ 真栄小学校と認定こども園にじいろの2園が札幌市より「読書推進事業」の指定を受け、これを機に近隣の幼稚園、保育園との交流が具体的な実践として始まり、現在も継続している。

連携先との関係

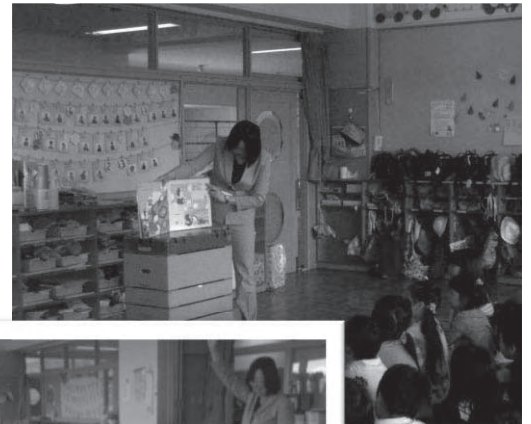
- ・ 真栄小学校へ進学する園児が例年多く卒園児も多く在籍している。日々の散歩コースでもあるため、園児が身近に感じられる小学校である。
- ・ 認定こども園にじいろ、あさひ保育園共に、進学先が同じ園児が多く在籍している。近隣の公園で会い、一緒に遊ぶ機会もあった。

成果

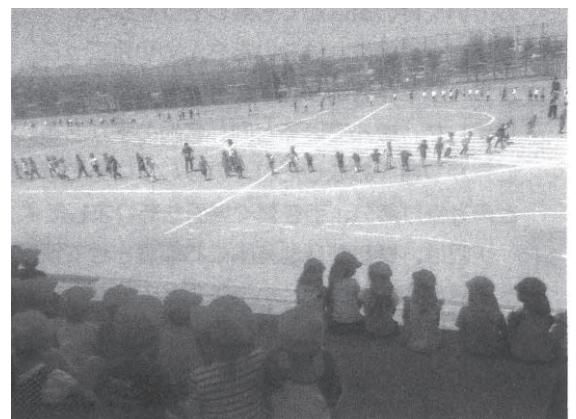
- ・ 園児も保護者も小学校へのイメージが具体的になり、より安心感や期待感が膨らむようになった。
- ・ 自分の幼稚園だけではなく、小学校へは多くの園から園児が集まることを知り、新たな友達との関わりを楽しみにしている。
- ・ 小学校という場が特別なものではなく、身近な存在ということを感じて親しみをもてるようになった。

考察

- ・ 年少、年中時から年長児の交流の様子を見てきているので、連携が継続されることで憧れや期待をもつことができる。
- ・ 入学前、入学後と子どもの様子を常にお互いが把握することができ、地域で子ども達を見守るという態勢が強まっていく。



【幼稚園での絵本の読み聞かせ】



札幌市立清田小学校

〒004-0841

清田区清田1条4丁目3-30

【園児（年長）と児童（1年生）との交流（平成27年1月30日）】

清田幼稚園と清田小学校は約300メートル程度と近く、幼稚園の運動会を清田小学校のグラウンドで行う等、日常的につながりが多い。

例年1月末に清田幼稚園年長の子どもたちが清田小学校に来校して、1年生の子どもたちと交流会を行っており、この交流は10年ほど続いている。本年度も、実施に向けて数回打合せを行った上で交流会を行った。

当日は、一緒に『ゲーム』や『リレー』をしたり、歌を歌ったりしてとても楽しい時間を過ごし、園児に小学校の楽しさを伝えることができた。



リレーをしている場面の写真



ゲームをしているところの写真



1年生が園児を見送る場面の写真

【成果】

- ・ 清田幼稚園と清田小学校が連携することで、幼児に小学校の楽しさを伝えたり、児童が1年間で成長した自分を感じたりすることができた。
- ・ 園児たちがとても楽しそうに『もうじゅうがりゲーム』や『貨物列車リレー』等で交流してくれたので、1年生の児童も達成感と自信がもてた。
- ・ 普段は上学年に甘えている1年生の児童が、この交流会では園児にとっても優しく接し、お姉さんお兄さんぶりを発揮することができた。
- ・ 幼稚園と小学校の職員間の交流もでき、情報交流ができた。
- ・ 次回、2月には小学校の職員が幼稚園の授業参観に伺う。

【学校行事の連携】

「みんなであそんじゃおう国」での交流

地域・区役所・開放図書館・PTAの方々
と合同で例年9月に開催する「みんなであ
そんじゃおう国」に近隣の幼稚園・保育園
の子どもたちを招き、楽しんでもらうとと
もに、学校の様子を見る機会にしてい
ただいている。

今年度は、事前にポスターを貼らせて
いただき、参加を呼びかけたり、スタンプ
ラリーカードを配布したりし、学校の中
のブースを自由に回っていただいた。



【昔遊びコーナーで小学生とともに楽しむ】

【成果】

「就学前児童→入学のイメージづくり 1年生→年長の自覚」

入学前の幼児にとって、小学校を見学することは大変有意義だと考える。学校への期待を高めるとともに、入学への不安の解消につながると思われる。また園児・幼稚園教諭・保育所保育士が小学校児童と共に活動することで、職員同士の交流を通じたふれあいの中から、確かな交流活動を生み出す基盤・素地づくりができる。さらに、1年生児童にとっては、高学年児童にお世話されがちなフォロアーシップの生活から、幼稚園・保育園の頃のように、年長園児としてのリーダーシップを発揮する姿の再認識が期待できる。

【考察】

毎年、交流を継続することで、学校間の共通理解が図れるとともに、「どの子にも」同じ経験・体験を通して確かな成長をのぞむことができる。言い換えれば、幼保小中連携を通じた確かな学びの教育課程のつながりを構築できる。

今後、以下の3点から交流を見直し、幼稚園・保育園、小学校両者にとって有意義なものにしていきたい。

- ① 教員同士の日常的な情報交換・連携を密に！
- ② 地域を学習のステージとしたカリキュラムの見直しを行い、交流の深まりと広がりをも！
- ③ 1年生児童による「みんなであそんじゃおう国」への招待と参加の見直しを！



札幌市立美しが丘小学校

〒004-0812

清田区美しが丘2条5丁目1-1

【『園児来校』の連携】

2月から3月上旬にかけ、「美しが丘幼稚園」「あさひ保育園」「里塚幼稚園」の園児が毎年別日に来校している。

小学校内を案内する中で、理科室では人体模型等の展示物に、音楽室では数多くの楽器に、体育館ではその大きさに、目を丸くしながら驚く園児たちの様子が見られ、微笑ましい限りである。

また、各教室を巡って授業の様子を見ながら、小学生の規律ある学習ぶりを見学している。



【幼稚園での交流活動】

5年生による園児への読み聞かせ。読み手と聞き手が1つになり、みんな一緒にお話の世界へ。

【『児童訪問』の連携】

5年生は、総合的な学習の時間の学習活動として「美しが丘幼稚園」と「国際大学附属幼稚園」への訪問を実施している。5年生児童が事前に計画・準備してきた「本の読み聞かせ」や「紙芝居」、「集団ゲーム」、「合唱」等を通じて、ほのぼのとした交流活動が子どもたちによって行われる。

【園児来校の成果】

園児の訪問は、子どもたちの中で小学校入学への期待をふくらませると同時に、小学校生活に向けての心構えを改めるきっかけとなっている。また、小学校の様子を園児に説明するにあたって要点を整理しておく必要があり、幼稚園・保育園の先生ともこまめに連絡を取りながら事前・事中の連携が大切となる。



【幼稚園での交流活動】

ゲーム（フルーツバスケット）をリードする5年生。5年生は事前にフルーツ名入りのメダルバッジを手作り。

【児童訪問の成果】

4月からは、この子たちが『6年生&1年生』として「お世話する・される」関係となる。訪問による交流活動を実施することにより、児童にとっては自分たちが全て中心となって活動を進めることが求められ、想定して計画する力、さらには、物怖じせず進行する力が少なからず培われているものと考えられる。

【考察】

入学後の「6年生&1年生」の関係づくりのスタートとして、この交流活動は効果的である。ぜひ継続させたい。

改善点を挙げるならば、今後、子どもの実態を見取り、指導に生かしていくに当たり、交流活動の内容を固定化させず、最適なものを考案していくことを念頭に置いていきたい。

札幌市立平岡公園小学校

〒004-0882

清田区平岡公園東5丁目9-1

【保育園・幼稚園との連携】

① なかよしキャンプ

- ・平成23年度より3年間、幼保小連携モデル事業「なかよしキャンプ」にモデル校として参加し、平成26年度からは、幼保小連携自然体験活動「なかよしキャンプ」の実施校に認定された。新年度に同じ小学校に通うことになる幼児（5歳児）と、児童（5年生）が一年前から交流を深めることを目的に、年間5回の活動が行われている。本校では5年生15名の児童が参加している。一緒に野外炊事、ジャガイモ掘り、宿泊などの自然体験活動を行うことを通して関わりを深めている。

② 生活科・総合的な学習の時間

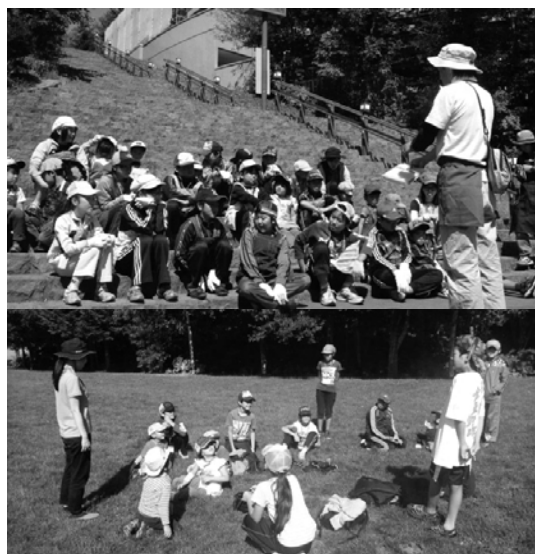
- ・2年生は、生活科「まちたんけん」の学習で、近隣の保育園を訪問し、園の様子を見学したり、保育士の方にインタビューしたりするなどの活動を行っている。
- ・5年生は、総合的な学習の時間「みんなに優しいまちづくり」の学習で、保育園や幼稚園との行き来の中で、園児に学校の中を案内したり一緒に遊んだりするなどの関わりをもっている。

【成果】

- ・①、②どちらの活動においても、自分より年齢が下の子どもたちと関わることで、相手を思いやる気持ちが育っていると感じる。相手の目の高さまで下がって会話をしたり言葉の使い方を変えたり、どんな活動をすれば喜んでもらえるかを工夫したりなど、園児のことを考えて活動する気持ちが高まっている。
- ・5年生は、6年生になったときに入学してくる1年生のお世話をととても楽しみにしている。そういった意味でも、5年生の時に「なかよしキャンプ」や学習の中で園児とふれあえることは、とても有意義な活動となっている。

【考察】

- ・「なかよしキャンプ」については、平成30年度まで実施校となっている。5年間の継続実施を通して、豊かな心と健やかな身体を育み、子どもたちが共に喜びを実感できるよう取り組んでいきたい。
- ・2年生や5年生の生活科・総合的な学習の時間の取組は、内容を改善しながら継続して行っていく。また、他にも無理のない形で幼稚園・保育園と関わりをもてる場はないか、その機会を検討していきたい。



【滝野青少年山の家での活動～「なかよしキャンプ」】



【すっかりなかよし～「なかよしキャンプ」】

札幌市立美しが丘緑小学校

〒004-0814

清田区美しが丘4条5丁目8-1

【ハートフル美しが丘】

地域の様々な世代の人と触れ合う学習。これまで、赤ちゃんと触れ合ったり、お年寄りの施設を訪問したり、中学生に勉強を教えてもらったりしてきた5年生児童と保育園年長児が休み時間を一緒に過ごした。

5年生はまず仲良くなるにはどうしたらよいかを考えて企画する。本校の教育活動の軸となっている異学年交流「ふれあい活動」のスタートのときに学んだことを生かして1対1の自己紹介ゲーム、小グループでの交流、簡単にできる全体遊びや鍵盤ハーモニカの演奏などをすることにした。体の大きな5年生に、気後れ気味だった保育園の園児たちも少人数での交流で徐々に慣れ、最後のじゃんけん汽車ぽっぽでは抵抗なく小学生とつながって笑顔で楽しんでいた。

地域の幼稚園、保育園とは職員同士のつながりを基に柔軟な連携ができています。これまでも1年生との交流や運動会・発表会の練習の見学など、小学校の様子を見る機会を設けたり、プールやグラウンド、雪山などで遊んだりする活動を行ってきている。今回紹介した事例は子ども同士の直接の交流であることと、小学校の授業の一環として毎年継続して積み重ねていけるという点によさがある。保育園の小学校訪問は年7回で、「施設の見学」「先生とお話」などを計画的に実践している。その中の4回目を「お兄さんお姉さんと休み時間に遊ぶ」内容にしている。本校5年生の総合的な学習の時間「ハートフル美しが丘」と活動内容が一致しているため、その一環として行うことが可能となっている。

【成果】

5年生にとっては、次年度、6年生として1年生と関わる自覚と意欲を高めることにつながっている。日頃本校で大切にしているふれあい活動で学んだことを生かす経験もできる。相手を楽しませるにはどんな関わりをしたらよいか、事前に準備すべきことが分かるようになった。何より、相手が楽しんでくれることの喜びをその場で実感することができる。教師もまた「今日楽しかった！」と言って帰っていく様子を見て充実感を味わうことができた。近くの公園などで会うと、園児の方から「〇〇先生！」と声をかけてくれることもある。また、本校に入学予定の園児の様子を新1年担任に引き継ぐこともできる。

【考察】

毎年実践することで準備や計画の下地ができていたため、負担が少ない。また、課題が見つかったときにも改善できる。児童と園児の交流では、準備に多くの時間がかかったり、カリキュラムにない活動であったりするとほかの教育活動に支障がでてしまうので、それぞれのねらいが達成できる活動の一環として実施するとよい。その意味で、年齢の異なる子ども同士が休み時間に遊ぶという簡単な活動ではあるが、学校生活の基本であり様々な学習の支えとなる友達づくりの土台ができ、その不安を入学前に取り除くことができる取組は児童にも園児にも意義ある活動であると考えられる。入学後に行うことの単なる先取りは新鮮な喜びや意欲を損なうことになり、ともすれば問題の表出時期がずれるだけに終わってしまう。期待感を高めることと安心感が得られること、相互の発達段階に応じた学びとなっていることを大切にしたい。そのためにも、担当職員同士が顔見知りになり、気軽に話し合える関係を築くことでより有意義な情報交流を今後も継続していきたい。

